

虎視

勝ち筋 探る車部品

長「『スマートフアクトリー』『人財』の五つの戦略を出した」

「不足元では部品供給の減産が相次ぎ、事業環境は厳しいです。」

「2021年度から5年間の中期経営計画を策定しました。」

「当社として初めて中計を公表した。『製グ（21年5月）で中計品』『グローバル』『成を公表できたと思う。』」

東京ラヂエーター製造社長

落合 久男氏



電動車向け熱交換器軸に

「回復期に競争力を保てるから」

「熱交換器では電動車向け製品の開発に力を入れます。」

「中計では23年度に試作品の納入、25年度に量産品の投入となっている。ただ計画を前倒ししたいと考えている。電気自動車（EV）や燃料電池車（FCV）でどういった要求があるのかを見極めたいし、的確な提案ができるかが重要になる」

「海外事業の拡大も進めます。」

「海外生産拠点で最適な稼働体制を構築する。事業継続計画（BCP）の確立も併せて進める。さらに拡販動向や主要顧客の動きを見ながら、新市場に進出するかどうかの判断もしたい」

「カーボンニュートル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）対応は。生産に関わる二酸化炭素（CO2）排出量は18年度比で25年度には20%減、30年度には35%減を目指す」（おわり）

記者の目

マレリの株売却有無 注目

東京ラヂエーター製造株式の4割を握るマレリ（さいたま市北区）が、私的整理の一つである事業再生ADR（裁判外紛争解決手続き）を申請した。現状では東京ラヂの事業活動に影響はないようだが、経営環境が大きく変化していくのは間違いない。マレリが東京ラヂ株を売却するのかがどうかも注目される。

（日下宗大）